

班	講 評
21	<p>今回のテーマは、①指定された 3 つの虚偽表示リスクに対して構築していると考えられる一般的な内部統制の説明と、②①に対する経営者の内部統制の無効化リスクを論述させるものであった。</p> <p>「一般的な事業会社」という点から、具体的な内容に落とし込み記載するのが難しかったのかもしれないが、各虚偽表示リスクについて、具体的なリスクのシナリオを記載してから、その防止策としての内部統制について述べている課題研究は、リスクと内部統制の関係が明確であり、また、記載した内部統制が防止策としてなりうるかどうかの評価もわかりやすかった。また内部統制の記載についても、抽象的な内部統制(新規取引先についてはマスター登録を慎重に行う、等)ではなく、具体的な内部統制(新規取引先にかかる申請者と登録者を分ける、新規取引先の信用調査等をした上で申請する、、、等)で記載されている課題研究は『できるだけ具体的に述べなさい』としている今回の課題研究のテーマに沿っていたものといえる。</p> <p>次に②の内部統制の無効化であるが、これについては多くの課題研究で比較的簡単に記載して終えているものが多い見受けられた。確かに、経営者のため、多くの内部統制を無効化できる立場にはあるが、課題研究であることも鑑み、指定された虚偽表示リスク及びそれに対して記載した内部統制について、具体的にどういった無効化リスクがあるかを個別に記載をすることが望ましいものであったと考える。</p> <p>形式面については、第 1 回目の課題研究に比べれば不備は少なくなったと思われるが、一読すればわかる誤字、脱字等は依然として散見された。具体的には、「売上」と「売り上げ」の混在、本来は「規程」であるべきところ「規定」となっている、「仕訳」が「仕分け」となっている、などである。課題研究は一つの書類であるため、それ自体で統一感が必要と考えるため、監査調書もそうであるが、作成し終えた後は一度読み返す習慣をつけるようにしてもらいたい。文書は、印刷をし、紙面で見てはじめて気付くこと(フォント違い等は特に)もあるので、対外文書では特に意識してもらいたい。</p> <p>テーマが具体的であった分、内容としては論じやすかったのではないかと思います。全体としてテーマで求められている問いに対して、それぞれが想定する内部統制や経営者による無効化リスクについて論じることができていました。テーマで求められているのは、不適切会計リスクの例に対する内部統制とその内部統制に対する経営者による無効化リスクについてでしたが、その根拠にどのようなリスクシナリオがあり、なぜ当該内部統制によってそのリスクが低減できるのかというところまで検討することができれば、より説得力のある論文になると思います。</p>
22	<p>自分の意見を書けていない人が多かった。不適切な会計処理と内部統制については、今の 1 年目としての立場でしっかり考えてほしい。</p> <p>まだ実務を知らない中、書籍等を参考に記載しているケースが多かった。尚、不適切な会計処理を行うにあたって、どのアサーションにリスクがあるのか?という観点での記載が十分にできていなかったため、今後実務を行う上で、不正リスクを分解した上で、内部統制を含むリスク対応手続を検討していただきたい。</p> <p>残念ながら全体的にレベルはそれほど高くなかった。</p> <p>というのも、J1 でありまだ実務経験が少なく、実際に企業で構築されている内部統制に対する知識がないからだと考えられる。その結果として、抽象的な記述であったり、業務フローと統制の区別がない記述等が散見された。</p> <p>また、記述した内部統制が存在することで、なぜ不適切な処理を予防ないし発見できるかが十分に理解していないため、説得力の弱い文章が多い印象を受けた。</p> <p>どのように内部統制が無効化されるかに関しても、その内部統制がもたらす効果を十分に理解していないため、やはり抽象的な記述が多かった。</p> <p>とは言うものの、実務経験が乏しい中で文献等を参考にし、各自努力と工夫して論文を作成したあとは伺えた。また数名の所感に「勉強になった」との記述があり、当該課題研究を通じて内部統制に対する習熟が深まったのであれば、実務補習としては成功であったのではないかと考えている。</p>

23	<p>典型的な不正に対する内部統制と経営者による無効化の課題であり、色々知っているだけに限られた字数の中で、うまく説得力ある論文が書けたかが1つのポイントであった。</p> <p>経営者は不正が起きないように内部統制を構築する責任がある。一方で構築者である経営者自身が内部統制を無効化することも可能である。経営者による内部統制の構築は、それぞれの項目(売上の架空計上、棚卸資産の過大計上、不適切な経費の繰延計上)について個別具体的に異なるため、別個に述べる必要があるが、経営者による無効化は、細かい手法は違っても大枠では同じことが多いため、字数が限られた中ではまとめて記述しても、説得力のある論述は出来たのではないかと思う。</p> <p>また、今回はテーマに「不適切な会計処理を防止するため」とあったため、防止に重点が置かれていたが、実際の内部統制は防止と発見が相互に機能しあうことによってより効果が現れることも合わせて押さえておきたい。</p>
	<p>比較的記載しやすいテーマだったこともあり、全体的にはなかなかの出来であったと思います。</p> <p>内容としては、テーマのうち「一般的な事業会社が構築していると思われる内部統制」についてはきちんと記載されているものが多かったです。一方で「経営者が構築された内部統制を無効化するリスク」については内容として不十分であったり内容がずれてしまっているものがいくつか見受けられました。</p>
24	<p>内容面： 経営者による内部統制の無効化に関する記載が、可能な限り具体的に表現出来ているかについて着目しました。なかには、監査人として経営者ディスカッションの有用性に言及しているものがあり、実務的にはとても重要な観点と思います。</p> <p>形式面： 売上、棚卸資産、経費のそれぞれについて、一般に想定される内部統制の内容とそれを無効化されるケースを論ずる必要がありますが、それぞれが明確に区分され、読み手に分かり良い構成になっているかについて着目しました。</p>
25	<p>全体的に一般的な内部統制についての理解にバラつきがありました。</p> <p>また無効化リスクとその具体的手法についてももう少し論じられれば良いかと感じました。全体的に平均程度です。</p> <p>全体的に補習所のテキストを参照しながら、基本的な記述ができており、基本的な知識の理解や文章表現はできていたと思います。</p> <p>ただ、補習所テキストの参照のみで参考文献が無い論述も多く、インターネット検索でも参考にした資料は少ない論述が多かったように思います。『課題研究』ですので、会計士になる前の初期の段階でしっかりと時間を確保し、必要な知識の習得や深度のある知識の習得に励んでいただきたいと思います。</p> <p>特に、参考文献については、2010年前後の内部統制導入初期のものを参照している方が多いため、現在における企業環境にはマッチしていないと個人的には考えます(全て紙面が前提になっているので)。例えば、これだけの情報化社会になっているので、内部統制に対しても、どれだけITを利用するメリットがあるか、ITの利用で経営者関与による内部統制無効化リスクを低減できるか、等も研究すると、より実務に適用できるかと思うので、引き続き知識の習得に励んでいただければと思います。</p>
63 64	<p>内容面： ■ 架空売上を防止する内部統制について具体的な事例が記載されてはいるが、多くは製造業を対象としたものと考えられる。最近の事例においては、ソフトウェア会社の架空売上のようにモノが実際にはない取引も発生しているため、業種別に架空売上に対する内部統制にも触れてあるとよりよくなると考えられる。</p> <p>■ 棚卸資産の過大計上については、棚卸立会が有効な内部統制であるが、棚卸を実施するという内部統制のみの記述が多い印象があった。棚卸立会の中にも様々な統制活動が含まれており、不正を防止するために有効な内部統制についての絞り込みが必要と感じた。</p> <p>形式面： 提出前には今一度、読み直しをして頂きたい。</p>